光町産業の展望

（その1）

光町の全戸数は約二、三〇〇戸人口は一二、八四〇人であり、その内農家の戸数約一、六〇〇戸、人口は一〇、二〇〇人、それに商工業は約一七〇戸・八五〇人であつて、農家と商工業者で占める割合は全体の約八〇%となつて居ります。

この数字が示す通り、合併に依り生れた吾光町は当然「産業立町」というべきではなかろうか、とりわけ農家にして見れば、水田一、一一六町、畑地五九九町、計一、七一五町歩の耕作面積を主体に農業経営を推し進めてゆくわけで、何はともあれ、産業振興を重点に各々の生活環境の向上を目途に町の発展を希うことは今更云う迄もありません。

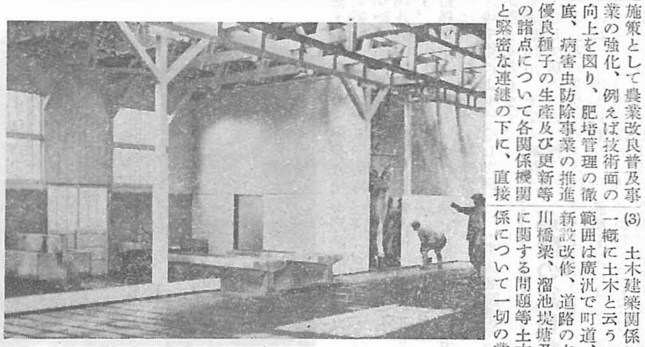
今度昭和三十二年の新春を迎えるに当り幸にも「光町広報」が発刊されることゝなり、以後引続いて発行されることゝなりましたので、町の産業々務を担当する産業課として現在取扱つている内容がどうであるか、どうすれば良いか、亦現在行つていること、或は将来行い度い希望など諸點について逐次発表いたし、親愛なる町民各位の御批判と御指導を仰ぎ度いと思います。

それには町産業の在り方を知つて戴くため「課の業務内容」つまり仕事はどの様なものであるかを、参考迄に御紹介いたします。

と申しましても、その内容は沢山ありまして、例えば農業指導関係、農業委員会土木、商工、或は畜産関係などでありますが、それ等のことを項目別にして、概略を述べることゝいたします。

(1) 農業指導事業関係

各作物をより多く増産する施策として農業改良普及事業の強化、例えば技術面の向上を図り、肥培管理の徹底、病害虫防除事業の推進、優良種子の生産及び更新等の諸点について各関係機関と緊密な連繋の下に、直接営農の健全化に役立たせるため、努力いたして居ります。



新装なつた町営東陽屠場（屠畜室の一部）

(2) 農業委員会の運営について

当町には旧村地區を一地域とする四つの農業委員会があり、直接我々農家のため盡力されて居りますが、概況は凡ゆる農地の問題をとりあげ、例えば所有権の移転、耕作権の移動、農地の転用、小作契約、土地改良交換分合或は農地紛争の解決等農地法に基いて公正妥当な処理を行い、別面一般農事としては農業生産計画の樹立、産米予約集荷のとりまとめ、食糧増産のための調査研究等云わば「農業経営の安定化」を計画実施する機関であり　。

(3) 土木建築関係について

一概に土木と云うてもその範囲は廣汎で町道、農道の新設改修、道路の占用、河川橋梁、溜池堤塘及び水路に関する問題等土木事業関係について一切の業務を担当し、尚建築工事の関係から届出などの指導面に至る迄引続いて観光のことなどで、要は産業の開發は道路からを実践し、住みよい住宅の建設に充分力を注いで居るものであります。

(4) 商工水産について

一般商工水産業の振興発展施策について努力する覚悟であります、幸い昨年を契機として町内を一円とする光町商工会が力強い發足をなし、堅実な歩みを続けて居りますので、今後の發展が大いに期待されるのであります。

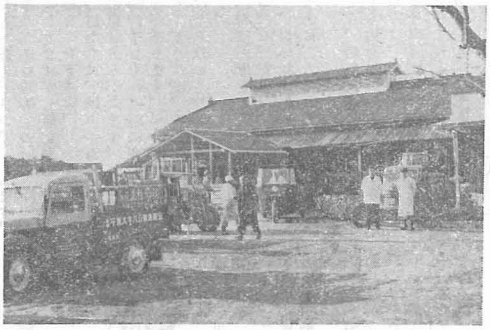
(5) 林務及配給関係について

A 造林についていろ〳〵な計画、補助金の取扱い、伐採について、或は毛虫の防除等森林資源の確保に役立たしめる。

B 米穀の配給について生産人口の転出入及び一切の配給割当などを行います。

(6) 畜産関係について

今や畜産の問題は全国的に最も大きくとりあげられ、直接農業経営に結びついてなくてはならない存在で、現金収入の増大、地力の維持増進等営農に果す役割は今更云う迄もありません、世は已に生活の向上につれて食生活の変遷は著しく、嘗つての芋は、主食を放れ国民齊しく営養価の高い、そして消化の良い、乳、卵肉を渇望し、亦食している現況であり、これ等の點を考慮に入れても、九千万国民に供給する段階には程遠い感がいたします．でありますこのとき、吾々農家は安い芋を、麦を、そのまゝ売らずに一度家畜の腹を通して有利に転換し、必ず実利を挙げ農家経済に完全なプラスを考慮することが、最も時代の要求に即した緊要なことではなかろうかと確信いたし、本年こそ尚一層飛躍的な畜産増強を御奨めいたし度いと存じます。幸い当町には近隣に比類ない畜産の施設が整つて居ります、この立派な施設をどん〳〵御利用御相談をお待ちいたして居ります。



混雑を極めた旧屠場

A 光町家畜人工授精所

昭和二十六年五月に開所以来、乳牛、役牛、豚の各優良な種牡が繋養され、県委託によつて経営がなされ、皆様の家畜の改良、増殖に役立たせて来たのであります。

今回県指導の下に「牛の精液サーヴイス、ステイション」を開設することゝなり昨年の九月より乳牛、役牛については縣の種畜場より数多くの「種」が定期的に入所して、皆様の希望の種牡の種付が出来ることとなりました。

殊に乳牛の輸入種牡の種は是非お奨めしたいと思います。

B 光町家畜診療所

従来家畜人工授精所に併設されていた家畜診療所を、更に強化し、町の條例に随つて一般家畜の診療を専門獣医が実費で奉仕し、いろ〳〵と家畜の御相談に努めております。

◇光町屠畜場の増改築成る

地方畜産開発の一助として明治四十二年創設にかゝり爾来今日に至る迄の傳統をほこり、縣下優位の屠畜場であります。

然し現在にして見れば、施設の老朽は顧客に不便をおかけするのみならず、収容力の点で狭隘でこれも時代の要求と申しましようか、一昨年増改築を計画早速着工し、皆様の御協力に依り此の程去月（八〇〇万円を投じ）漸やく竣功を告げ、県下に優秀な装備を誇る新鋭屠場として生れ変りました。

因みに従来一日一五〇頭せい〳〵の屠殺頭数であつたものが、新屠室では電殺であり三〇〇頭の倍の能力であります。

以上町産業施策の概要であります。

昭和31年産各種主要作物別生産概況　　光町

地區別	水稲 耕作面積	水稲 実収予想反収	水稲 生産量	麦作 作付面積	麦作 実収予想反収	麦作 生産量
日吉	3365反	253升	8513石	6918畝	167升	1155石
南條	2463	246	6059	5943	162	963
東陽	3283	216	7091	15682	172	2697
白浜	2049	206	4221	14218	169	2403
計	11160	232	25884	42761	169	7218

地區別	甘藷 作付面積	甘藷 実収予想反収	甘藷 生産量	普通畑作付面積 そ菜面積	普通畑作付面積 雑穀	普通畑作付面積 陸稲	普通畑作付面積 馬鈴薯	特殊作物面積 煙草	特殊作物面積 桑園
日吉	698.4反	700メ	488.880貫	217.6	247.8	1.0	18反	23.9	133.8
南條	632.5	690	436.425	144.8	172,6	2.0	15	0	72.7
東陽	1187.3	720	854.856	329.1	279.6	90.5	32	72.0	19.4
白濱	1035.0	710	734.850	267.7	200.6	29.5	28	215.1	5.0
計	3553.2	708	2515.011	359.2	900.6	123.0	93	311.0	330.9

昭和31年度優良種子普及更新実績

水稲 採種圃面積	水稲 生産種子量	水稲 更新面積	陸稲 採種圃面積	陸稲 生産種子量	陸稲 更新面積	大麦 採種圃面積	大麦 生産種子量	大麦 更新面積	小麦 採種圃面積	小麦 生産種子量	小麦 更新面積
370畝	1100斗	2200反	10畝	28斗	56反	140畝	253斗	506反	200畝	293斗	586反

昭和31年度水稲健苗育成施設普及実績　（保温折衷苗代）

地區別	保温折衷紙	ビニール	計	本田植付面積	指数
日吉	13603坪	2050坪	15653坪	1957反	58%
南條	9140		9140	1142	46
東陽	11150		11150	1115	34
白濱	3100	200	3300	330	16
計	36993	2250	39243	4544	41

昭和31年度病虫害防除実績　（町負担）

水稲 種子消毒 種籾使用量	水稲 種子消毒 薬剤（ウスプルン）	水稲 苗代消毒 防除面積	水稲 苗代消毒 薬剤使用量 三共ボルドー	水稲 苗代消毒 薬剤使用量 DDT乳剤	水稲 苗代消毒 薬剤使用量 グラミン
44696升	22348匁	607反	182.1kg	152.0kg	6070 g

昭和31年産米予約売渡実績表　　光町役場

地區名	集荷要請数量	努力目標数量	予約売渡申込数量	12.17現在集荷数量	予約申込進捗率	売渡農家戸数
日吉	3.929石	4.322石	4.597.2	4.611.6石	100.3%	374戸
南條	2.975	3.273	3.312.0	3.388.4	102.3	274
東陽	2.250	2.475	2.815.2	2.853.2	101.3	366
白濱	772	849	950.0	976.0	102.7	195
計	9.926	10.919	11.674.4	11.829.2	101.3	1.209

屠畜頭数実績表　　光町東陽屠場

畜種 ＼ 年度別	昭和29年（1月～12月）	30年	31年
豚	8.993	10.181	14.656
牛	131	187	169
馬	94	80	75
犢	193	421	424
山羊	1.117	1.109	1.496
計	10.528	11.978	16.820

編集後記

光町発足以来広報を發行し町民各位に町政の実態を御理解願い、御協力を賜り度かね〳〵立案して居つたのでありますが、種々の事情から発行が遅れて参りました。

漸く昭和三十二年の輝かしい年頭に皆様の御手許に配付する運びとなりました。もとより初めてのことで、皆様に御満足頂けないと思いますが、以後は年四回発行の予定であります。皆様に愛される町の機関紙として、充実いたす心算で居りますので、この広報に對する御希望や、御意見又御批判等御遠慮なく頂き、今後の編集方針を樹てる資と致し度く存じて居ります